

街を行く

第28回 川崎 Kawasaki

オシャレで良いのか？

今回、川崎を取り上げたのは「街のあり方」を考えたからです。むかしを知っている者からすると、ここは駅前からしていかにもオシャレで綺麗な街になりました。でも、川崎らしさはなくなりましたよ。（そこに根をおろしていない他所者の意見と承知で言えば）どうして街は綺麗でオシャレになることが良いことで、それを目指そうとするのでしょうか。便利さは街の顔を変え、街の特色をも奪ってしまうのです。プチ整形はコンプレックスを解消して精神的にも前向きになることに寄与(?)する一方、極度の整形は元も子も失くしてしまうのと同じことです。地元の方からすればむかしの川崎のイメージは競輪(小生、意外と競輪が好きなものですから)に代表される「ギャンブルの街」で、また、工場が多く、人の気質は少し荒々しい、神奈川を代表する「下町」でした。異国情緒でオシャレな港街横浜とは真反対としてみられてきたように思います。いまのオシャレで綺麗な川崎は、そうした過去の憂さを晴らすようなものですから、街も素直に受け入れられたのでしょうか。でも、横浜のようになってしまうたら川崎をどう説明したいのでしょうか？

川崎に限らず、街の特色を説明する代名詞はどんどん無くなっています。どこを見ても皆同じなのです。街の再開発の中心が駅のターミナルですから、日本国中同じようなデベロッパーが請け負っているのです仕方がないかもしれません。でも、今に特色のある街が消え、立て看板を見なければ自分がどこにいるのかわからない異常事態が発生するでしょう。皆さん怖くないで



左——川崎駅前。気性の荒い賭博の街が、装いをイタリア風に換えて幾年月。かつてあった工場は東京圏を代表する立派な商業施設になりました
右——会社の先輩と祝盃をあげた銀柳街。もともと特色ある街は無理やり変えるより、味わいを深めて繁栄してほしい

すか？酔っ払って駅に降りたら家まで辿りつけない、かもしれませんよ。街の散策に戻りますと、まだまだ昔の面影は残っています。以前この街にプロ野球チームがあったことを知っていますか？現在の横浜ベイスターズが大洋ホエールズだった頃、川崎球場がメインスタジアムだったのですよ。当時、プロ野球のチームがホームタウンとしているのは取りも直さず、ビッグな日本での主要都市であったことの証です。

個人的なことで、もう30年以上も前の話ですが、社会人になって初めての取引契約が川崎のオフィスビルでした。そのとき会社の先輩と銀柳街で祝盃をあげたのを昨日のように覚えています。本当のところ街は少しも変わっていないのに、われわれが無理矢理変わせようとしているのかもしれない。変わることが悪いと言っているわけではありません。コンセプトの決まった代名詞が何か、それがはっきりすれば変化

は繁栄に繋がるでしょう。昔の川崎の情緒も今思えば味わいのある街の顔でした。この味わいを良い意味で残していくのは、われわれがいかにこの街へ足を運ぶからです。オシャレや綺麗なだけが街の顔じゃないのですから。

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。
BLOG「南一弘の負けない不動産投資」
http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro